

授業改善等に関する報告書（2019年後期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

[2019（後期）美学美術史学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
民俗芸能 b	串田 紀代美	「民俗芸能」という聞きなれない学問に、みなさんが興味を持ってくださり、さまざまなことを考えるきっかけにしてくださいました。授業で大変うれしく思います。大人数の授業でしたので、すべての方々の希望に応えることができませんでしたが、みなさんからのコメントは私にとって非常に有意義なものとなりました。知識を頭に入れる勉強と異なり、「民俗芸能」は体を動かして行うフィールドワークが核となります。教室内の授業では、その点が伝わらなかったことが非常に残念です。
芸能文化史	串田 紀代美	「芸能文化史」という授業名から、履修者のみなさんが何を想像し、何を学びたいのかがいまひとつ実感できず、手探りでスタートした授業でしたが、学期末の発表を通してみなさんの視点が理解できました。「芸能」という文化は、日本国内だけを考えても非常に幅広いジャンルを持ち、それらは時代とともに変化します。今後も、みなさんがさまざまな時代や地域の「芸能」に興味を持ち、直接接する機会が増えることを期待しています。
日本美術史入門 b	仲町 啓子	双方向授業への工夫がさらに必要と思われる。100人以上の受講者なので、TAをつけてより質問をしやすい環境を設定しようとしたが、さらなる方策を考えてみたい。
西洋近代美術史特講 d	六人部 昭典	授業進行のスピードについては、前期に比べると、数値が改善した。とはいえ、ノートをとる箇所と作品をじっくり見る箇所（両者を並行して行うことは難しい）の区別をつけ、学生たちが理解を深められようようにしたい。また、この授業を通しての学生たちの関心を卒論等につなげたいと思う。
日本近代美術史入門 b	児島 薫	積極的に取り組んでくれた人には、それだけ多くの成果がついてきています。日本近代の歴史については一定の知識を持つことが大人として必要になってきますので、試験では作品のことだけでなく歴史についても問題を出しました。よくできなかった方は復習してください。これからも日本近代の作家の展覧会などに足を運んでほしいと思います。
日本近代美術史特講 d	児島 薫	大人数の授業のために、みなさんと対話することがほとんどできませんでしたが、質問があれば個別にしてください。時々少し早口になってしまったところがあったかもしれないと思います。またやや高めの問題設定にしたので、少し難しかったかもしれません。あとで、そういうことだったかと思いついてもらえるとうれしいと思います。
卒論ゼミ b	椎原 伸博	回答率が低いのですが、皆さん頑張って卒業論文を完成させることが出来ました。その分、皆さんの理解率も高めとなっています。今後は、卒業論文作成の経験を活かして、実社会でも頑張ってください。
卒論ゼミ b	仲町 啓子	教員の呼びかけ方の不足により、回答を得ることが出来ずに残念である。
卒論ゼミ b	宮崎 法子	評価してくれたのが一人だけだったのは残念ですが、みんなよく頑張りました。それぞれが卒論に真剣に楽しんで取り組んでいたのも、私もうれしかったです。卒業後も、仕事や日々の生活のなかで、楽しく努力が続けられるように、頑張ってください。
卒論ゼミ b	六人部 昭典	回答が多くはないが、卒論指導はおお、胸順調に進んだと思われる。ただ、個々の学生の関心を深め、また日本語力の向上につなげることなど、さらに工夫を加えたい。
日本美術史演習 b	仲町 啓子	演習はもっとも学生と密に接する課題で、双方向授業の成果はかなり上がったと思われる。今後も一人一人の学生の状況に応じた適切な質問や助言に努めたい。
卒論ゼミ b	児島 薫	回答者が少ないので何とも言えませんが、優秀な卒業論文がそろい、みなさんとてもよく頑張ったと思います。これを自分の自信として卒業後も誇りに思ってください。
卒論ゼミ b	駒田 亜紀子	授業の理解度と質問のしやすさに問題があることを理解しました。ご指摘ありがとうございます。個人指導が中心である卒論ゼミにおいて、重点的改善項目としたいと思います。
卒論ゼミ b	武笠 朗	回答者が1名で、コメントのしようがありませんが、卒論指導の双方向性をより高めるべく努力したいと思います。

[2019 (後期) 美学美術史学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
世界の美術 b	小倉 康之	成績評価に関しては、シラバスに記載した通り「課題：50%」、「試験：50%」で評価しました。毎回250字程度の記述が2～3問課題プリントとして手渡されたので、自学自修は大変だったと思います。その代わり課題をしっかりとこなした学生は試験での成績も良く、14回の課題のうち12～14回分を提出した人はほとんどが「A+」か「A」評価となりました。アンケートでも「11. この授業を通じて、自身の成長が実感できましたか?」という項目では「4.25」が平均値となりました。一昨年は「4.58」でしたので以前と比べて少し下がっています。これは、今年度は欠席者が多かったためだと認識しています。また、以前と比べ予習復習時間も「1.62時間 (2017年度) → 1.39時間 (2018年度) → 1.35時間 (2019年度)」と少なくなっているのも気になります。自学自修時間を毎週3時間くらい確保すれば、課題にもじっくり取り組むことができ、成長も実感できると思います。担当教員の側でも、配付資料と課題プリントの内容をさらに充実させるとともに、WEBから資料をダウンロードできるように整備し、効果的で効率の良い自学自修のための環境を整えていくつもりです。この授業を機会に、建築芸術への学術的関心を高めてもらえるよう努力します
中国美術史特講 d	宮崎 法子	期末テストは、事前にお知らせした記述課題と、授業内容の基礎を確認するためのテスト部分が、ほぼ半々の配点でした。平均点は76点です。かなり甘く採点して、50点以上は合格としたので、不合格の人は最終的にいませんでした。ただ、テスト部分が出来ない人が思ったより多く、残念でした。少し復習すれば出来たはずですが、また、記述問題は、字数を無駄にしないように、要点を押さえた文を事前に準備するようにしましょう。よく書けた人もいきましたが、ポイントがずれている人なども見受けました。授業中にも少しずつ練習しましたが、作品をよく見て、特徴を言葉にすることに慣れて行って欲しいと思います。
仏教美術史演習 b	武笠 朗	回答が4件のみで、コメントがむずかしいですが、後期も人数が多く個別指導がうまくいかなかったことは大きな反省点でした。見学授業は、今年度は見学後に発表する形としたため、目的意識を持って見学できたことがよかったと思います。
グローバル・アートスタディズ b	五十嵐 ジャンヌ	外国語を学ぶときは忍耐が必要です。初心者は何度も復習することが必要です。基礎を繰り返し見直ししながら、授業を進めることができました。配布資料を準備したことが評価していただけた。フランス語と美術の知識を同時に学ぶことができ、フランス語の基礎力がついたと感じていただけたら、歌やリズムを通してフランス語に親しんでいただけたようです。
デザイン実習 c	下山 肇	平面デザインの基本であるポスターの制作について二つの技法で習得できた。基本的なコンピュータの操作とソフトの扱い、また色面分割による平面構成についての理解が深まった。さらに1年生の前期課題以来の絵の具による課題制作によって技法的にも学びが深まった。
西洋近代美術史入門 b	六人部 昭典	授業進行のスピードについては、前期から改善したようだ。学生たちが大学での0講義やノートの取り方に慣れてきたことと、この点についての授業中の指示がある程度、結びついたのだろう。この入門の授業を通して学生たちが持った関心が、「特講」や「演習」につながるようになってゆきたい。
中国美術史演習 b	宮崎 法子	せっかく4年生との交流や打ち上げにほとんどの学生さんが出席してくれたのに、そのときにもっと強調しなかったためか、授業評価をしてくれた学生さんが2人しかいなかったことは残念でした。今後、アナウンスを忘れずにして、またこの授業に特有の質問もするようにしたいと思います。多くの課題を課しましたが、すべて提出出来ない学生さんも多く、また回収法など工夫しないと、混乱があって、採点も大変でした。今後気をつけたいと思います。また、期末レポートについては、ゼミ生には、個別にフィードバックして、指導に活かします。少しでもよい卒論が書けるように、それぞれ頑張ってください。
中国美術史入門 b	宮崎 法子	授業内でもっと質問をしたかったのですが、なかなか時間がとれませんでした。授業は内容的に難しいことも多かったと思いますが、プリントや画像もマナビにアップしているのでも、予習復習に少し時間をとり、また香雪の展示などを見ると、かなり理解しやすいのではないかと思います。期末試験はよく出来た人も多く、100点も数人いました。90点以上も多かったのですが、40点以下の人もありました。最低点は23点。平均点は75.3点でした。素点で50点以上は合格としました。出席や小テスト、香雪の展覧会の感想を合わせて最終的な評価をしました。結果として、C評価に大きな幅が出来ました。Bに近いCの人はかなり損しています。その他グレードの境界にいる人についても、いつも素点で評価出来たらと思います。なお、問題文に書いてある文字を解答欄に写すとき、文字を間違えることが目に付き、もったいないと思います。特に、授業中にも何度も言ったと思いますが、南宋(時代)と、南宗(董其昌の南北二宗論)の文字を間違えた人が多かったのは残念でした。問題文をよく読むことは試験の時の基本です。今後気をつけて欲しいと思います。

[2019（後期）美学美術史学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
日本美術史特講 d	仲町 啓子	特講とはいえ、100人を超す受講者がいるので、双方向授業はかなり難しいが、今後は適宜質問なども交えていきたい。
日本近代美術史演習 b	児島 薫	演習なのでみなさん自身の取り組み方によって授業の成果は変わります。多くの人はよく取り組んで、よい発表をしてくれましたが、それに対する意見を発言する人が少なく、あまり増やせなかったのが私の反省点です。なるべく声を出していきましょう。
入門演習	串田 紀代美	この授業では、毎回の授業を通して、全体あるいは個々に細かくフィードバックを実施しました。細かく厳しい指導だったと感じた方もいらっしゃるかと思います。それは、「書く」技能はみなさんの今後の人生において重要なスキルだということを強調したかったからです。今回うまくいかなかった方も、これからのレポート執筆の経験を通して、だんだんスキルアップしていくことを実感なさるとと思います。みなさんの日本語力はこれからも伸びていきますので、洗練された日本語を武器に、人生の扉をひらいていってください。
美学特講 d	椎原 伸博	回答率が低いのが残念です。また、今回追加レポートを出さなければ行けなくなった状況もありました。理解率が低いこと、学修時間が少ないこと、それらはレジュメの確認作業の怠りに大きいように思いました。今回はオペラの授業だったため、映像の時間に対する集中力が少なかったような気がします。また、ノートやメモをとらずに、漠然と授業を受けている学生も多かったのではないのでしょうか？授業内容については、レスポンのアンケートで確認していましたが、全く書けていない学生もいる一方、良く見て授業を理解しながら書いている学生も多くいました。今回成績をつけたところ、+Aの学生が多かったことがその証だと思います。つまり、興味ある人と興味ないひとのギャップが大きかったようです。授業については、できるだけシラバスに沿って行ったつもりですが、もう少し皆さんの学修内容をチェックすべきだったかもしれません。今後は、追加レポートを出されることのないように、復習につとめてください。
西洋近代美術史演習 b	六人部 昭典	アンケートを見る限り、授業の内容・進行のスピード等、概ね順調だったと思われる。学生たちが個々に考えたテーマが卒論につながるよう指導したい。また、グループ発表を通して得た協調性などを高めてゆきたいと思う。
入門演習	串田 紀代美	この授業では、毎回の授業を通して、全体あるいは個々に細かくフィードバックを実施しました。細かく厳しい指導だったと感じた方もいらっしゃるかと思います。それは、「書く」技能はみなさんの今後の人生において重要なスキルだということを強調したかったからです。今回うまくいかなかった方も、これからのレポート執筆の経験を通して、だんだんスキルアップしていくことを実感なさるとと思います。みなさんの日本語力はこれからも伸びていきますので、洗練された日本語を武器に、人生の扉をひらいていってください。
西洋美術史入門 b	駒田 亜紀子	大教室での大人数の授業ですので、双方向の質問のしやすさに課題があることが分かります。限られた条件の中で、より受講生の皆さんに興味をもって質問もしていただけるように工夫したいと思います。
西洋美術史演習 b	駒田 亜紀子	演習は課題等の多い授業ですので、受講生の方はよく頑張ってくださいと思います。その中で、授業の理解度に課題があることが分かりました。資料等をさらに工夫する努力を続けたいと思います。
仏教美術史入門 b	武笠 朗	授業の双方向性については、依然として課題です。講義中心の授業形式なのでなかなかむずかしいのですが、少しでも高めるべく工夫をしたいと考えます。皆さんには復習時間を増やして、理解を深める努力を求めたいと思います。試験で論述問題に全く手をつけない人が目立ちます。文章を書くことを嫌がらないで、少しでも書きましょう。
グローバル・アートスタディズ e	横山 奈那	本授業ではアートに関する英語の文献を読みました。長文の外国語文献を精読することは受講者の多くの方々にとって初めての経験だったのではないのでしょうか。語学のみならず、登場するアートについての知識も問われるため、理解するのが難しい箇所もあったと思います。特に後半のテキストでは難易度が上がったため、難解さを感じたかもしれません。内容の理解や解釈に迷ったら、専門用語を調べてみるだけでなく、文献に立ち戻って考えてみてください。
美学演習 b	椎原 伸博	アンケートの回答率が低いようです。もっと、授業内に確認をとるべきでした。少ないアンケートには「双方向的にコミュニケーションを取る時間が多く、第三者の意見をまとめる力がついた。」といった感想がありました。模造紙による共同発表でついた力を自信を持ってください。さらに「発表が苦手でも何を書けば良いのかわからなかったけれど、別の人の発表を聞き何となく理解することができるようになった。」とありました。この一年で確実に力はついていると思います。その自信を、卒業論文制作にも活かしていきましょう。

[2019（後期）美学美術史学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
美学入門 b	椎原 伸博	<p>回答率が低いと、全体としての評価はしづらいところがあります。前期の美学入門aよりは、理解度が高まっているようです。とはいえ、全体の平均からは低いので心して取り組みたいと思います。さて、コメントに「教員側から授業を改善しようとする姿勢が見受けられない。」という意見がありました。この意見に対する反論をさせてください。まず、入門bの授業では、教科書を入門aよりも多く活用出来るよう工夫しました。それは、事前学習用のコーネル式ノートに、教科書をまとめてきて、それを元に3回グループ学習をしました。扱うテーマは難解なものだったと思いますが、皆さん頑張って課題に取り組み、その成果はでていたと思います。レスポンスも少ない回数ではありましたが利用し、フィードバックに努めました。また、授業開始時にシラバスを確認した上で授業を開始するよう心がけました。マイクについても意識的に用いて授業を進めたつもりですが、聞き取れない部分もあったようで、それは真摯に意見を受け止めます。この授業改善という問題では「レジュメを先に配らないという考えも「聞かなくてはならない」と思うので分らないです。ですが無の状態では授業を受けると何の話がされているのかのワードを注目して聞く必要があるのかなどが全く分かりません。レジュメは今まで通りあとから構わないので簡単な予習などをさせて貰えと嬉しいです。」という意見がありました。今後は授業の資料を先に提示し、予習が出来るようにします。期末テストを採点したところ、皆さんの学修量が増えていることを実感しました。二年以上の特講等でも、自主的に意欲的な学修をこころがけてください。</p>
仏教美術史特講 d	武笠 朗	<p>授業の双方向性については、依然として課題です。講義形式なので、どうしてもある程度一方的になってしまいます。例えば課題レポートへのコメントに十分な時間を割くなど、少しでもフォローすべく工夫をしたいと考えます。皆さんには、配付資料への書き込みで自分のノートをしっかりと作ることを求めます。</p>
デザイン実習 b	下山 肇	<p>社会から必要とされる「意味のないものに新たな価値を見出すこと」への理解が深まった。さらに、取材したものを基にして、そこから作品を考え出す力がついた。特徴的なテーマ設定から自主的な事前事後学習へ自然に誘うことができた。</p>
デザイン入門 b	下山 肇	<p>制作する意欲やデザインに対する関心が高まり、慎重かつ効率的に作業を進める力がついた。また前期入門aで学んだ内容（色彩など）について、課題を超えて再考できた。課題自体が高校や中学では学ばない切り口からものだったため、デザインの特徴がさらに深く学べ、柔軟で臨機応変に対応する力がついた。同じ課題であっても内容はそれぞれが決めるため、作業量にばらつきが出るが、授業内で収まらなかった場合についてはさらに工夫が必要である。</p>
デザイン入門 b	下山 肇	<p>制作する意欲やデザインに対する関心が高まり、慎重かつ効率的に作業を進める力がついた。また前期入門aで学んだ内容（色彩など）について、課題を超えて再考できた。課題自体が高校や中学では学ばない切り口からものだったため、デザインの特徴がさらに深く学べ、柔軟で臨機応変に対応する力がついた。同じ課題であっても内容はそれぞれが決めるため、作業量にばらつきが出るが、授業内で収まらなかった場合についてはさらに工夫が必要である。</p>